

第1編 総論

※統計データは、グラフ・表の一部が空欄となっておりますが、最新の数値が確定次第追加する予定です。

第1章 策定にあたって

第1節 策定の背景と趣旨

近年、我が国を取り巻く社会経済環境は大きな転換期を迎えており、国際的な観点からは、あらゆる分野においてグローバル化や情報化が進行しています。また、環境・資源問題や災害、テロ、といった国境を越えて広がる問題や課題に直面しています。

国内においては、結婚年齢の上昇、出生率の低下などから、少子化が依然として進んでおり、平成17年には初めて人口が自然減となるなど、本格的な人口減少社会に突入しています。また、高齢化、核家族化の進行とともに、地域とのつながりの希薄化、社会全体の規範意識の低下が指摘されています。さらには子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、子どもの問題行動の増加、いじめ、不登校などが学校教育の現場における問題としてクローズアップされるなど、教育を取り巻く環境は大きな変化に直面しています。

こうした変化を背景に、国において平成18年12月に、およそ60年ぶりに「教育基本法」が改正されました。そしてこの改正教育基本法等を踏まえ、幼稚園教育要領及び小・中学校の学習指導要領も改訂され、平成20年3月に告示されています。幼稚園では、幼稚園教育要領が平成21年度から全面実施、小・中学校では新学習指導要領の一部が先行実施されています。そして平成23年度から小学校で、また平成24年度から中学校で全面実施されることとなっています。

このように、近年教育基本法等の改正を踏まえた教育制度の大きな変革が順次進められてきました。さらに、平成20年7月には、教育基本法に基づき、教育に関する総合的な計画として「教育振興基本計画」が国で策定されました。この教育振興基本計画については、地方公共団体に策定の努力義務が課されています。

本市では、これまで平成17年3月に策定した「戸田市子ども教育ビジョン・小・中学校教育プラン（戸田市教育振興計画）」に基づき、教育に関する各種施策を推進してきました。このたび、現行計画の期間が終了となることから、教育基本法に基づき、法改正や、国・県の動向を考慮するとともに、市の各種関連計画との整合性を図りつつ、新たな市の教育振興計画を策定することとなりました。

■教育を取り巻く近年の国の動向

年月	内容
平成18年12月	改正教育基本法 公布
平成19年6月	学校教育法、教職員免許法および教育公務員特例法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正
平成20年2月	新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について（答申）
平成20年7月	教育振興基本計画 閣議決定
平成21年4月	学習指導要領改正

本計画では、基本理念と基本目標を次のとおり定めます。詳しくは、本文 44、45 ページをご覧ください。

基本理念

生き生きと 共にはぐくむ 教育のまち 戸田

基本目標

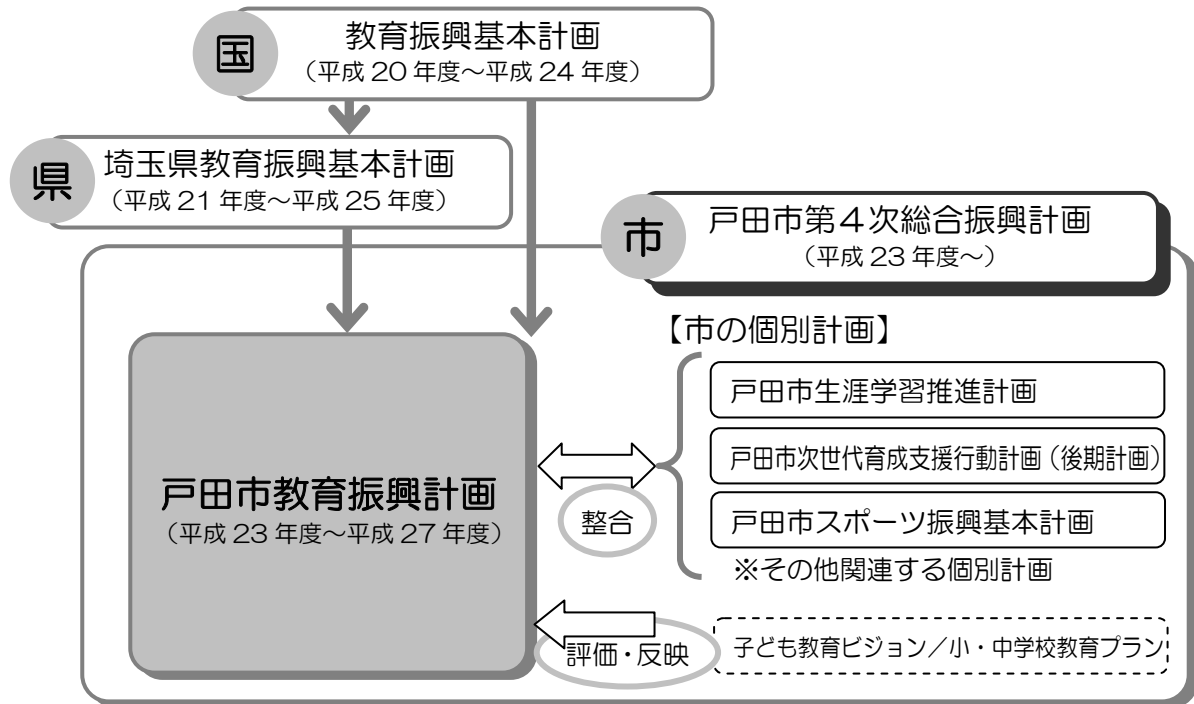
- (1) 生きる力を育む教育を推進する
- (2) よりよい教育環境の整備を推進する
- (3) 地域社会と連携した教育を推進する

第2節 計画の位置づけ

本計画は、教育基本法第 17 条の規定に基づいて策定する、戸田市における教育振興のための施策に関する基本的な計画です。

また、国・県の関連計画を考慮するとともに、戸田市第4次総合振興計画を基盤として、市の教育に関連する計画との整合を図りつつ策定します。

■関係図



■教育基本法 抜粋

第 17 条 政府は、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策その他必要な事項について、基本的な計画を定め、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 地方公共団体は、前項の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。

第3節 計画の期間・対象

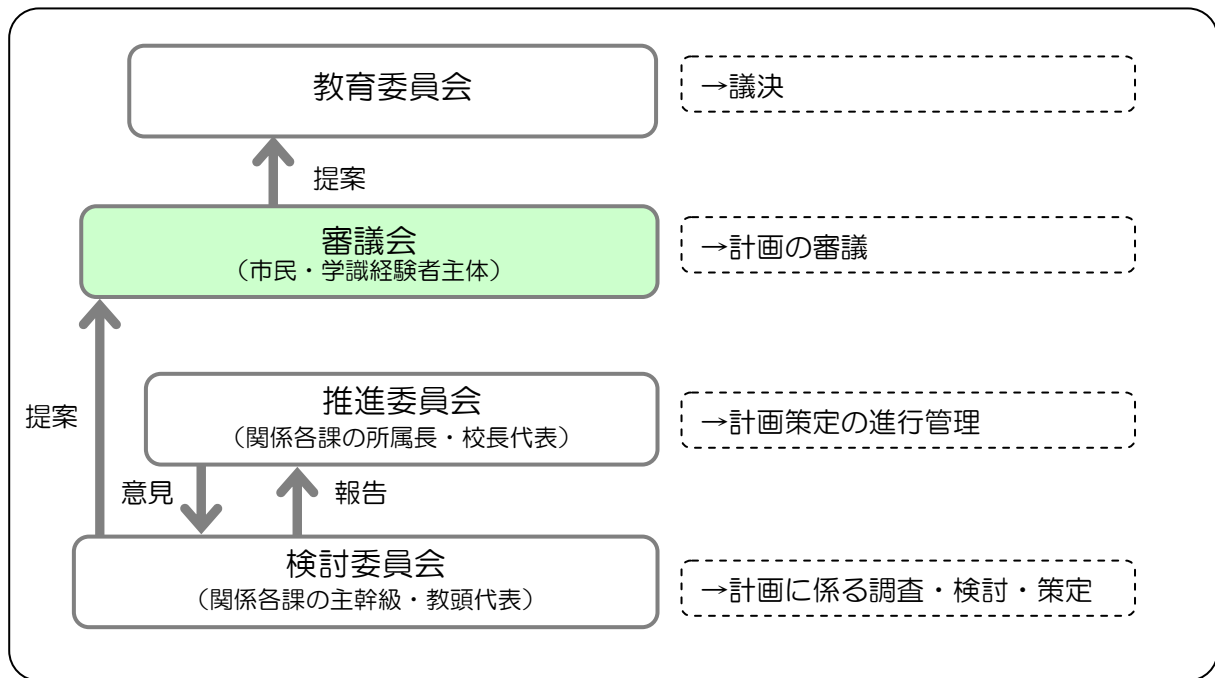
本計画の期間は平成 23 年度からの5年間とします。なお、計画期間中、状況の変化により見直しの必要性が生じた場合には、適宜計画の見直しを行うこととします。また、本計画の対象は、学校教育を中心としつつ、全ての年齢層を対象とします。

平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度
戸田市教育振興計画									
					見直し	次期			

第4節 計画の策定体制

本計画は、「戸田市教育振興計画審議会」が中心となり、庁内の検討機関である「戸田市教育振興計画検討委員会」において協議を重ね、策定します。

また、市民 1,300 人、小中学生 1,817 人、教師 541 人を対象に実施した「戸田市教育振興計画策定に係るアンケート調査」や、各種団体等へのヒアリング調査、パブリックコメントの実施等を通じ、広く市民、地域の意見の反映に努めます。



市民意見の収集

アンケート	教師・小中学生・市民を対象に市の教育に関するアンケートを実施。
団体ヒアリング	教育に関わる各種団体より、それぞれの立場から現状や課題についてヒアリングを実施。
パブリックコメント	計画素案に対する市民意見募集を、市のホームページ等を通じて実施。

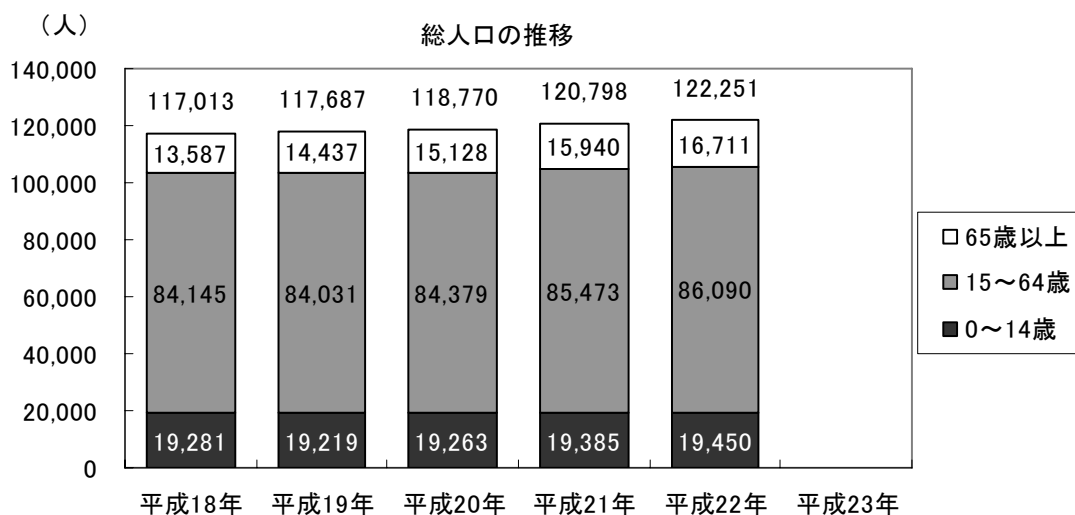
第2章 戸田市の教育等を取り巻く状況

第1節 人口等の状況

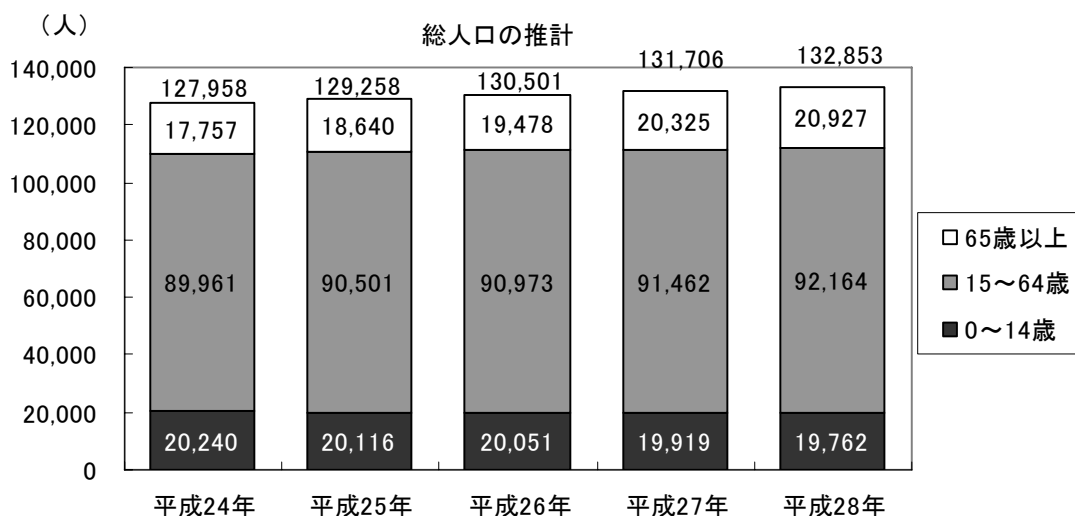
(1) 人口の推移・推計

本市総人口の推移は、近年継続して増加しており、平成22年では122,251人となっています。年齢3区分別では、特に65歳以上人口の増加割合が高くなっています。また、平成23年から平成28年にかけての推計においても増加傾向が続きますが、0～14歳では、平成24年をピークとしてゆるやかな減少傾向となることが見込まれます。

■総人口の推移



■総人口の推計

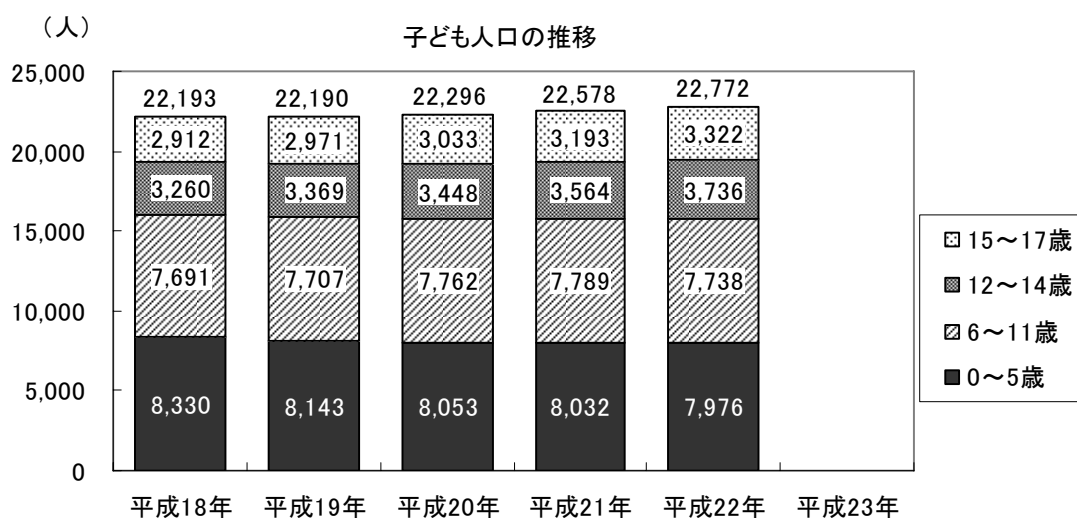


(2) 子ども人口の推移・推計

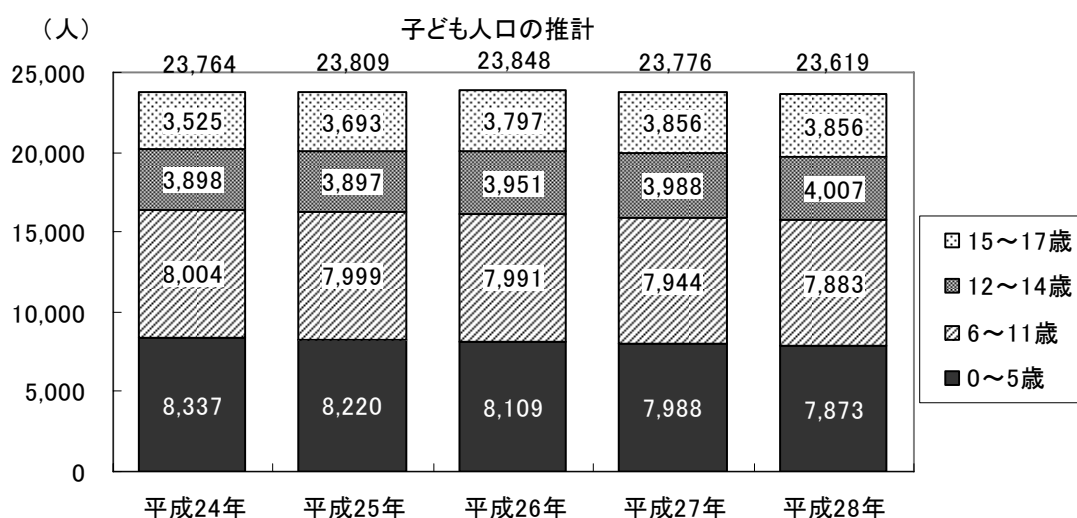
本市の子ども人口は、近年増加傾向にあり、平成22年では22,772人となっています。年齢別に見ると、12～14歳、15～17歳で増加傾向がみられるのに対し、6～11歳では7,700人台で増減しながら推移しています。また0～5歳では平成17年から平成22年にかけて、わずかながら減少傾向となっています。

平成23年から平成28年にかけては、平成26年をピークに、子ども人口全体で減少に転じると見込まれます。

■子ども人口の推移



■子ども人口の推計



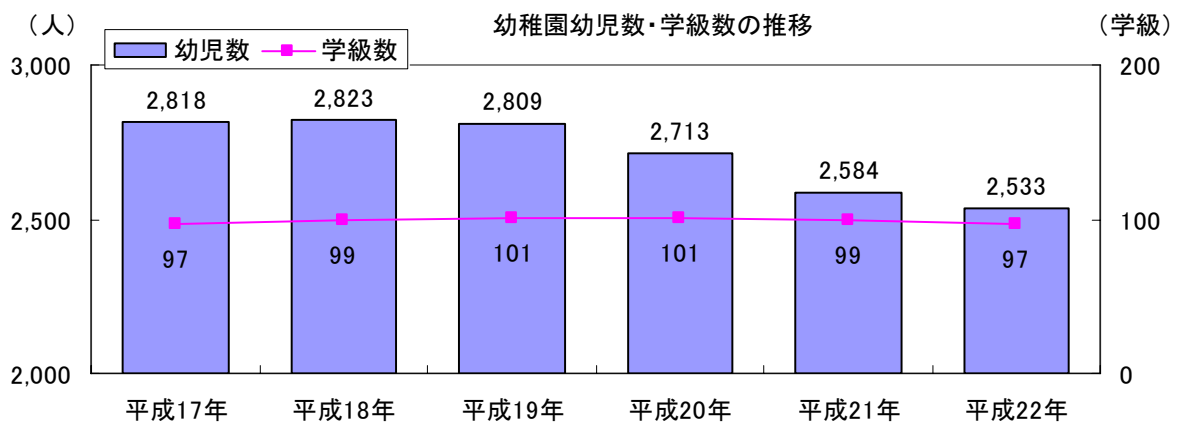
第2節 幼稚園・保育所・学校等の状況

(1) 幼稚園・保育所の状況

平成22年5月1日現在、本市には10の私立幼稚園があり、学級数は97、幼児数は2,533人となっています。幼児数は平成18年以降、減少傾向となっています。

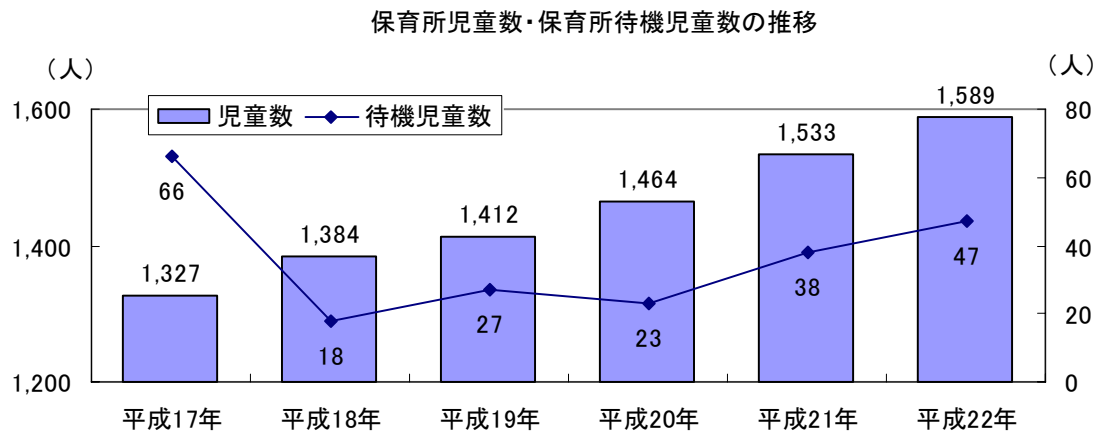
一方、保育所児童数は平成17年以降増加傾向が続いており、平成22年4月1日現在、児童数は1,589人となっています。また、待機児童も増加傾向にあり、47人となっています。

■幼稚園幼児数・学級数の推移



資料：学校基本調査・保育幼稚園課（各年5月1日）

■保育所児童数・保育所待機児童数の推移

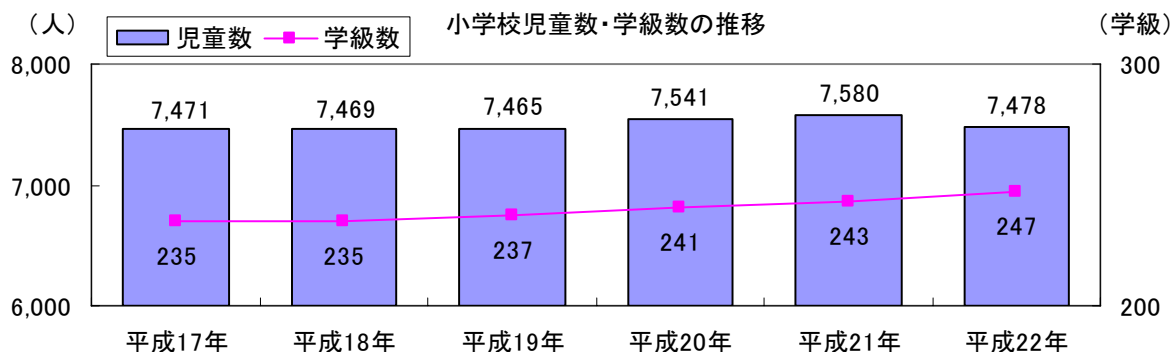


資料：保育幼稚園課（各年4月1日現在）

(2) 小学校の状況

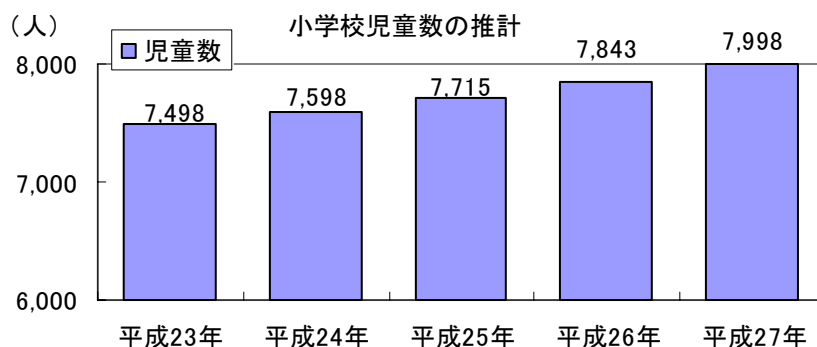
平成 22 年 5 月 1 日現在、本市には 12 の公立小学校があり、学級数は 247、児童数は 7,478 人です。平成 17 年以降、学級数は緩やかな増加傾向となっていますが、児童数は平成 22 年まで横ばいとなっています。以降、平成 27 年にかけては増加傾向が見込まれます。

■小学校児童数・学級数の推移



小学校：1・2年生 35 人学級、3～6年生 40 人学級
資料：学校基本調査・学務課（各年 5 月 1 日）

■小学校児童数の推計



資料：学務課（各年 5 月 1 日）

■小学校別の児童数・学級数

中学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	合計	学級数
戸田第一小学校	162	134	141	147	122	150	16	872	28(3)
戸田第二小学校	185	177	171	178	167	168	19	1,065	36(4)
新曽小学校	106	113	112	92	75	112		610	19
美谷本小学校	53	59	57	43	48	53		313	12
笹目小学校	51	55	56	52	58	62	16	350	15(3)
戸田東小学校	83	110	80	99	107	85		564	19
戸田南小学校	137	136	160	136	146	147		862	24
喜沢小学校	59	58	60	74	68	67		386	12
笹目東小学校	141	153	138	120	123	133		808	25
新曽北小学校	110	112	121	122	108	106	8	687	24(2)
美女木小学校	73	91	81	74	84	76	3	482	17(1)
芦原小学校	78	76	91	74	71	89		479	16
合計	1,238	1,274	1,268	1,211	1,177	1,248	62	7,478	247(13)

※学級数の欄中 () 内の数は、特別支援学級（特学）の学級数で内数

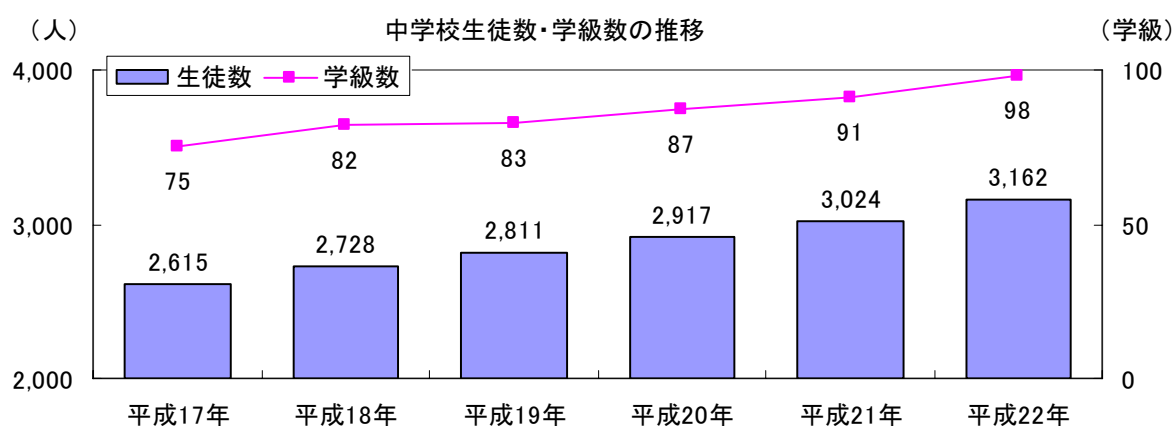
資料：学校基本調査・学務課（平成 22 年 5 月 1 日）

(3) 中学校の状況

平成 22 年 5 月 1 日現在、本市には 6 つの公立中学校があり、学級数は 98、生徒数は 3,162 人です。平成 17 年以降、学級数、生徒数ともに増加傾向が続いており、平成 23 年以降は 3,300 人前後で推移すると見込まれます。

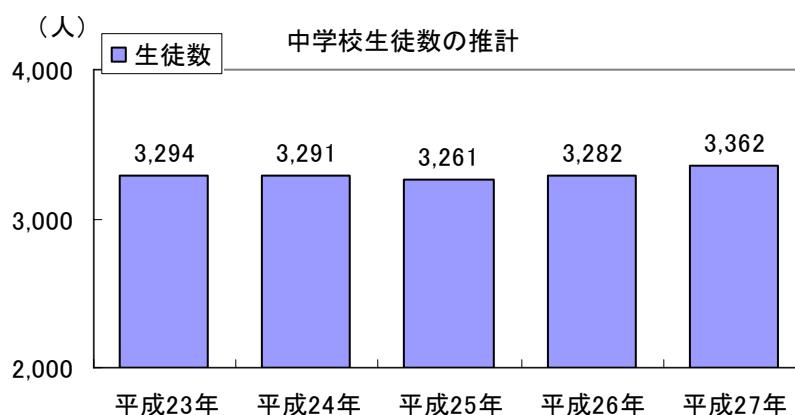
また、本市では、平成 17 年度から、学習意欲を高め、特色ある学校づくりを推進するため、保護者・生徒が自ら進学先の中学校を選択できるようにしています。平成 22 年度の入学希望申込結果をみると、通学区内での希望者が 1,165 人、通学区外からの希望者が 138 人と増加傾向となっています。

■中学校生徒数・学級数の推移



中学校：1年生 38人学級、2・3年生 40人学級
資料：学校基本調査・学務課（各年5月1日）

■中学校生徒数の推計



資料：学務課（各年5月1日）

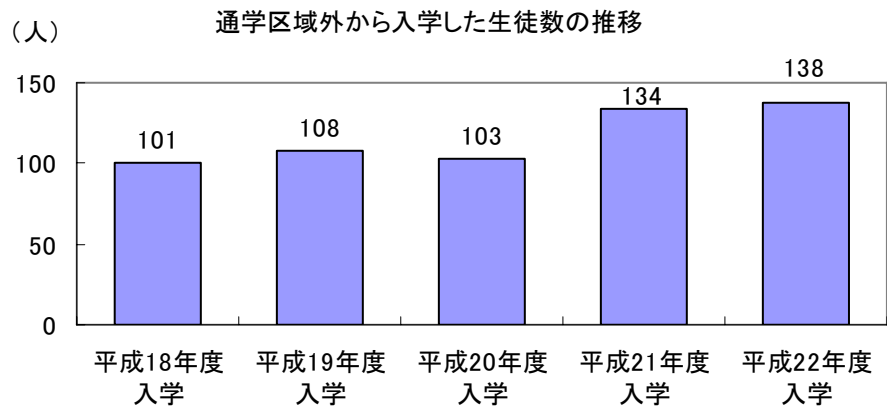
■中学校別の生徒数・学級数

中学校名	1年	2年	3年	特支	合計	学級数
戸田中学校	245	242	227	22	736	23(3)
戸田東中学校	125	134	126		385	12
美笹中学校	108	106	136		350	10
喜沢中学校	169	152	123	5	449	15(2)
新曽中学校	246	251	193		690	19
笹目中学校	209	165	163	15	552	19(3)
合計	1,102	1,050	968	42	3,162	98(8)

※学級数の欄中 () 内の数は、特別支援学級（特支）の学級数で内数

資料：学校基本調査・学務課（平成22年5月1日）

■中学校の学校選択制



資料：学務課

(4) 特別支援学校等の在籍の状況

特別支援学校への在籍者数については、平成 22 年に小学校 40 人、中学校 26 人となっています。

特別支援学級への在籍者数については、平成 18 年から平成 22 年にかけて小学校、中学校ともに増加傾向となっています。

あすなろ学園（就学前の知的障がい児が通園する施設）への利用者数については、平成 18 年から平成 22 年にかけて、ほぼ横ばいで推移しています。

■特別支援学校在籍者数

特別支援学校(人)		平成22年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	
小学校	知的障がい	5	5	1	5	5	2	23
	肢体不自由	2	5	3	2	3	2	17
	合計	7	10	4	7	8	4	40
中学校	知的障がい	8	4	7				19
	肢体不自由	3	1	3				7
	合計	11	5	10				26

資料：学務課（平成 22 年 5 月 1 日現在）

■特別支援学級在籍者数の推移

特別支援学級(人)		平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年
小学校	知的障がい	33	31	37	38	42
	自閉症・情緒障がい	16	22	27	25	21
	合計	49	53	64	63	63
中学校	知的障がい	13	20	23	24	28
	自閉症・情緒障がい	3	5	6	11	14
	合計	16	25	29	35	42

資料：学務課（各年 5 月 1 日現在）

■通級指導教室（発達障がい・情緒障がい）への通級児童数

	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年
通級児童数(人)	7	10	8	9	7

資料：指導課（各年 5 月 1 日現在）

■通級指導教室（難聴言語）への通級児童数

	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
通級児童数(人)	110	119	125	137	95

※通級指導教室（難聴言語）では、軽度の障がい（発音・吃音等）のある小学生に、その障がいの改善や克服をめざして個別の指導をしています。

資料：指導課（平成 18 年度～平成 21 年度：年間のべ人数／平成 22 年度：4 月当初人数）

■あすなろ学園（知的障害児通園施設）利用者数（戸田市の利用人数のみ）

	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年
通園児	31	26	27	26	29
カンガルー通園児	5	7	4	8	7
合計	36	33	31	34	36

※学園独自事業…定期通園（通称：カンガルー通園）

資料：障害福祉課（各年5月1日現在）

（5）外国籍児童生徒の状況

平成 18 年から平成 22 年にかけて、外国籍児童生徒数は小学校・中学校合わせて 110 人前後で推移しています。現在、日本語指導をはじめ、きめ細かなケアが図られています。

■外国籍児童生徒数の推移

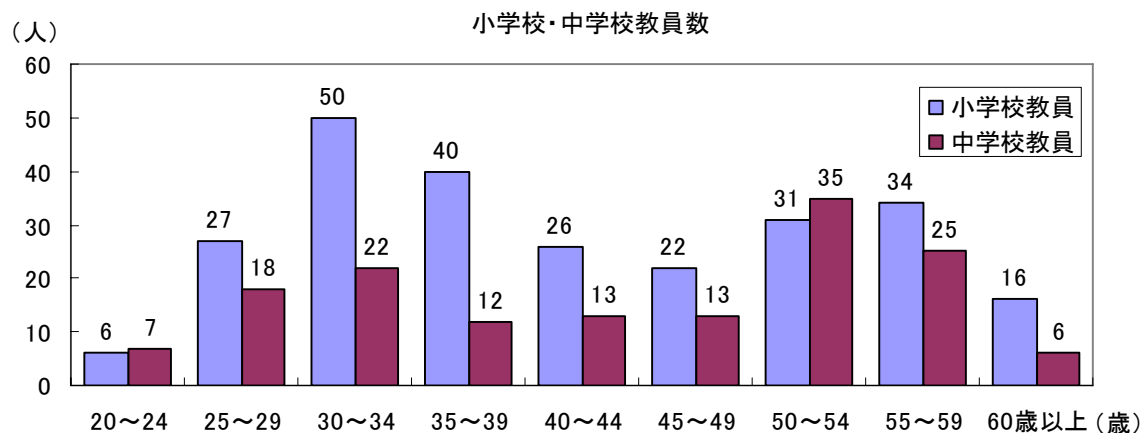
外国籍児童生徒数(人)	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年
小学校	79	80	75	71	76
中学校	29	40	44	39	36
合計	108	120	119	110	112

資料：学務課（各年5月1日現在）

（6）教員の状況

本市の教員については、小学校では 30～34 歳の年齢層が最も多く、中学校では 50～54 歳の年齢層が最も多くなっています。特に、中学校では 35～49 歳の中間層が少なくなっています。

■小学校・中学校教員数



資料：学務課（教員数（臨時採用を除く）は、平成 22 年 5 月 1 日現在、年齢は平成 23 年 3 月 31 日現在）

第3節 子どもたちをとりまく状況

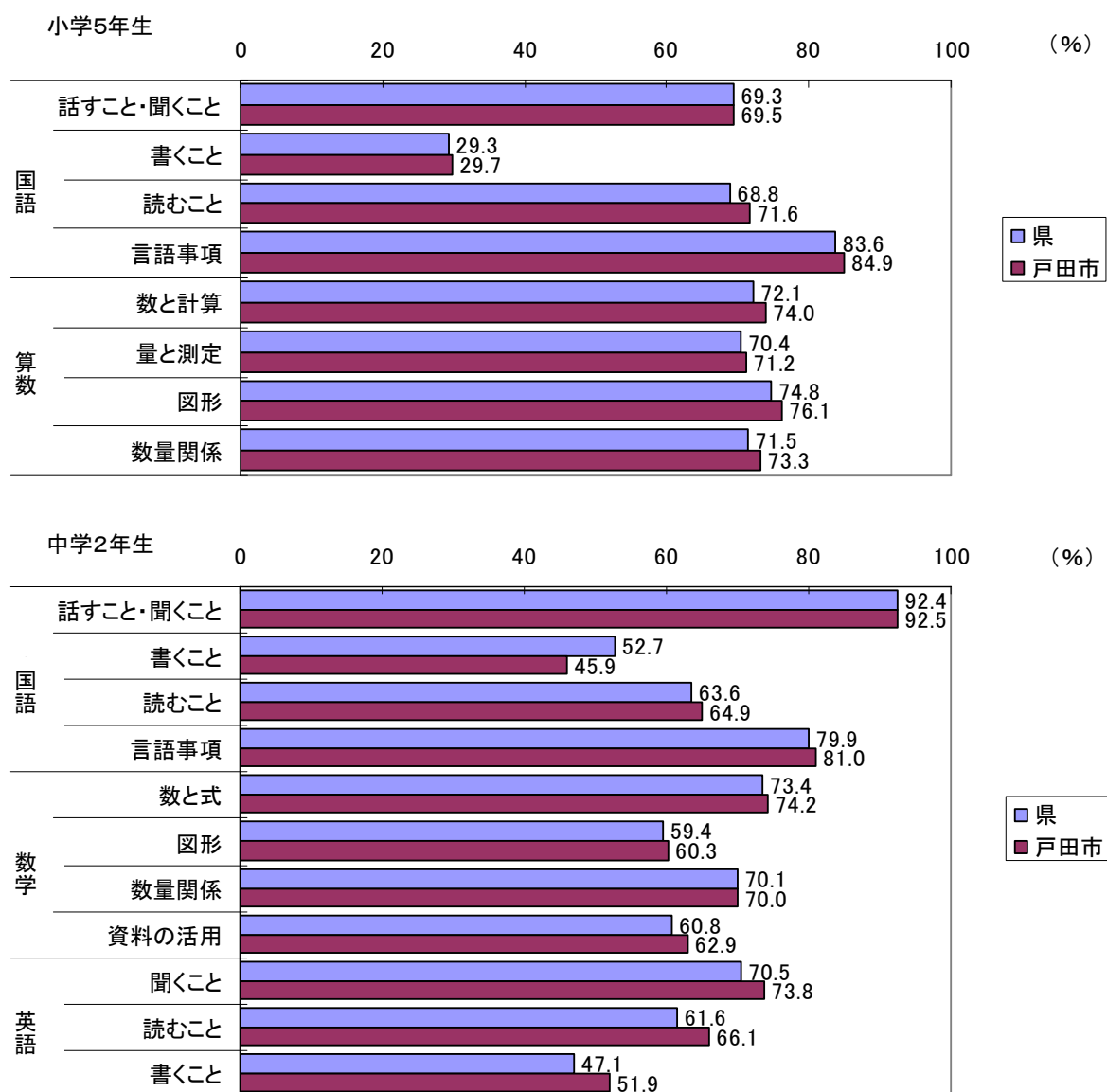
(1) 学習の状況

教育委員会では、児童生徒の学習に対する興味・関心などの状況や学習内容をどの程度身に付けているかを把握するために、小学5年生、中学2年生全員を対象とした「埼玉県小・中学校学習状況調査」を実施しています。

平成22年度調査における本市の内容別結果を、県の正答率と比較すると、小学校では、国語と算数のすべての項目において県の正答率を上回っており、県の上位に位置しています。

中学校でも、国語、数学、英語でほとんどの項目で県の正答率を上回っており、特に英語は正答率が高くなっています。

■学習内容別結果（正答率）（平成22年度）



資料：埼玉県小・中学校学習状況調査 市町村別結果（平成22年度）

(2) 体力・運動能力の状況

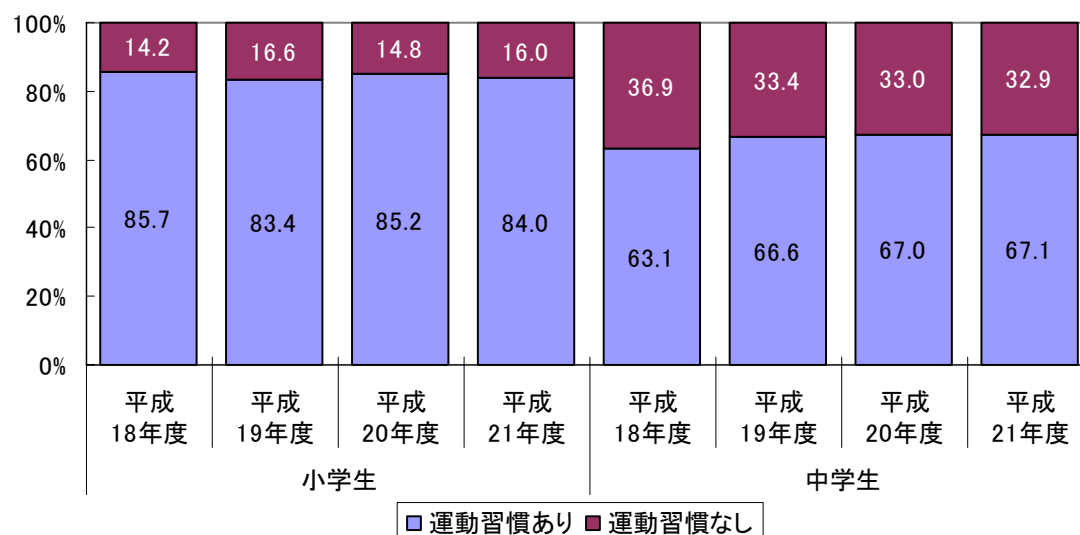
体力の向上には、運動習慣が大きく関わっています。本市の児童生徒の運動習慣については、小学生・中学生ともに、運動する子とそうでない子のばらつきが見られ、特に中学生では運動習慣のない割合が大きくなっています。

運動能力を測る新体カテスト（全国的に実施、8種目を測定）の、市の平成21年度の平均値を平成20年度のもの比べると、男子はそれほど変化がありませんが、女子は低下しています。

また、県平均と比べると、小学校では、握力・持久力・投力が下回っており、それに加え女子は走力や跳躍力が下がっています。中学校では、小学校よりも二極化が進んでいることもあり、男女とも握力以外の体力について県平均を下回っている状況にあります。

■外遊び・運動・スポーツの頻度

		①ほとんど毎日する(3日以上)	②ときどきする(週に1~2日程度)	③たまにする(月に1~3日くらい)	④しない	運動習慣あり ①+②	運動習慣なし ③+④
小学生	平成18年度	57.2	28.5	11.2	3.0	85.7	14.2
	平成19年度	51.7	31.7	11.7	4.9	83.4	16.6
	平成20年度	53.2	32.0	10.5	4.3	85.2	14.8
	平成21年度	52.6	31.4	11.6	4.4	84.0	16.0
中学生	平成18年度	44.0	19.1	20.7	16.2	63.1	36.9
	平成19年度	51.4	15.2	16.4	17.0	66.6	33.4
	平成20年度	51.3	15.7	15.3	17.7	67.0	33.0
	平成21年度	52.9	14.2	16.1	16.8	67.1	32.9



学校の体育の授業以外に外遊びや運動・スポーツを1時間以上する日数（自分が入っているスイミングや、体操教室剣道教室などのスポーツの習い事の日数も含む）

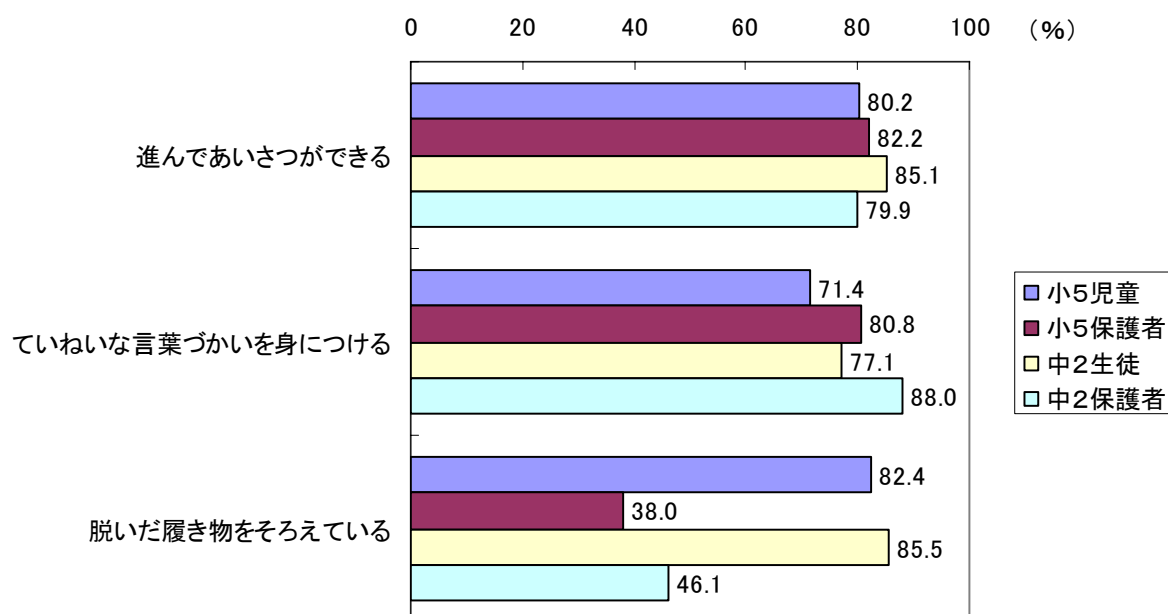
資料：教育に関する3つの達成目標「体力に関するアンケート」結果（平成21年度）

(3) 生活習慣の状況

基本的な生活習慣がきちんとできているかについては、「進んであいさつができる」では小学校児童・保護者、中学校生徒・保護者ともに「できている」「ほぼできている」合わせて8割前後となっています。「ていねいな言葉づかいを身につける」では、小学生・中学生ともに7割台となっていますが、保護者の評価はそれぞれ10ポイント程度高くなっています。

一方で、「脱いだ履き物をそろえている」では、小学生・中学生ともに「できている」「ほぼできている」合わせて8割以上となっていますが、保護者の評価はそれぞれ大きく下回っています。

■ 「あいさつ」「ていねいな言葉づかい」「履き物をそろえる」などの生活習慣について



(「よくできる」「だいたいできる」と答えた児童生徒、保護者の割合)

資料：平成21年度「教育に関する3つの達成目標」の取組に係る効果の検証結果

(4) 教育相談の状況

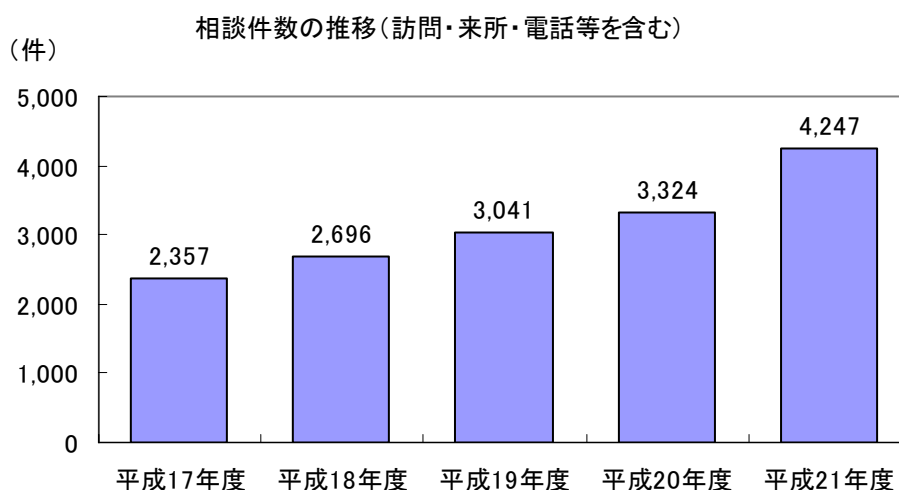
子どもたちが抱える悩みや心配ごとについて、本人や保護者から教育センターに寄せられた相談の状況をみると、平成17年度から平成21年度かけて相談件数は増加傾向が続いています。

平成21年度の主な相談内容は、「不登校に関わる相談」が一番多く、次いで「発達に関わる相談」「性格、行動に関わる相談」と続いています。これは、本人も保護者も共通の傾向となっています。

増加している相談の内容からは、子どもたちが様々な悩みを心に抱えながら毎日の生活を送っている姿が、浮かび上がってきます。

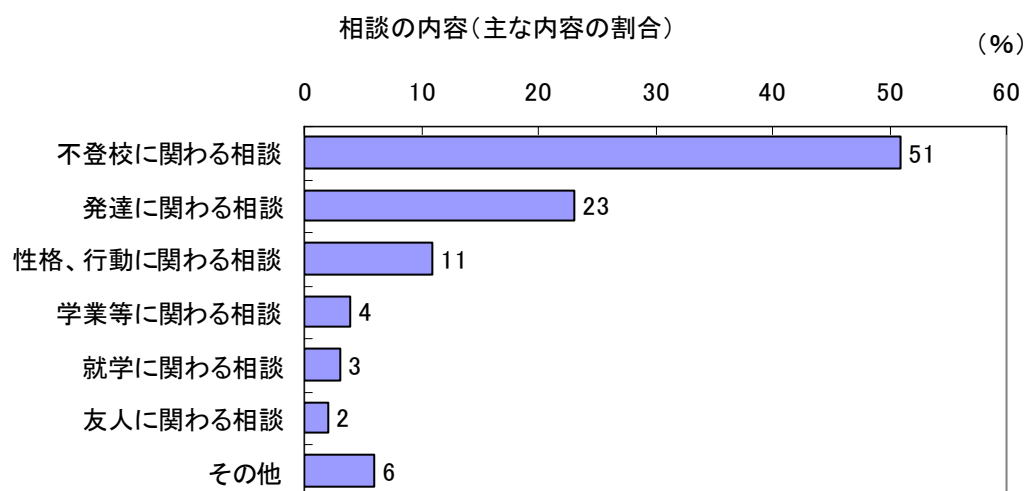
特に不登校に関わる問題は、相談内容の約半数に達しており、子どもたちが抱える悩みの中でも大きな比重を占める問題となっています。

■相談件数の推移



資料：指導課

■相談の内容(平成21年度)



資料：指導課

(5) 地域の安全の状況

近年は、小学校で不審者事案の報告件数の多い状況が続いています。不審者事案の発生時間帯としては、下校・帰宅時間帯に集中しています。

■各小・中学校から教育委員会に報告された不審者事案の件数

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
小学校(件)	21	9	9	21	15
中学校(件)	10	13	15	3	7
合計(件)	31	22	24	24	22

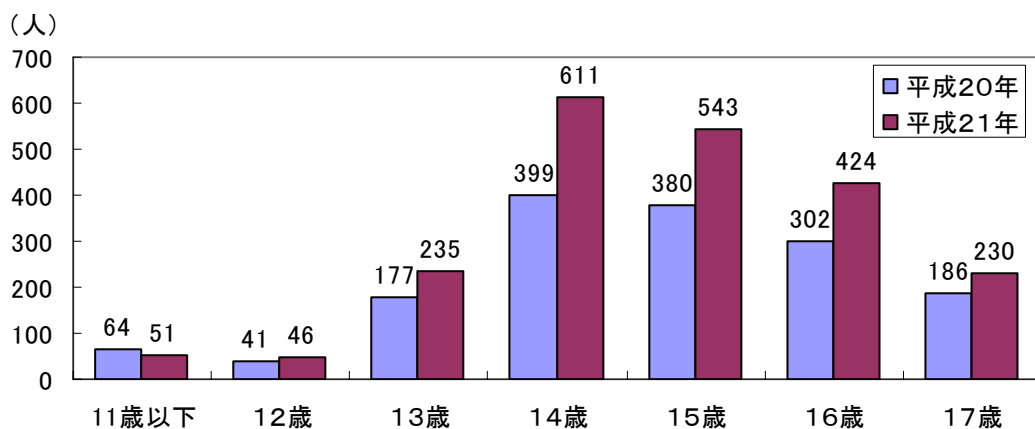
資料：指導課

(6) 青少年の健全育成の状況

①青少年の犯罪

県内で平成21年に万引きで検挙・補導された17歳以下の青少年は2,140人で、平成20年に比べ591人増加しています。特に14歳が最も多く、低年齢層の増加が顕著になっています。

■万引きの検挙・補導人員（県内）



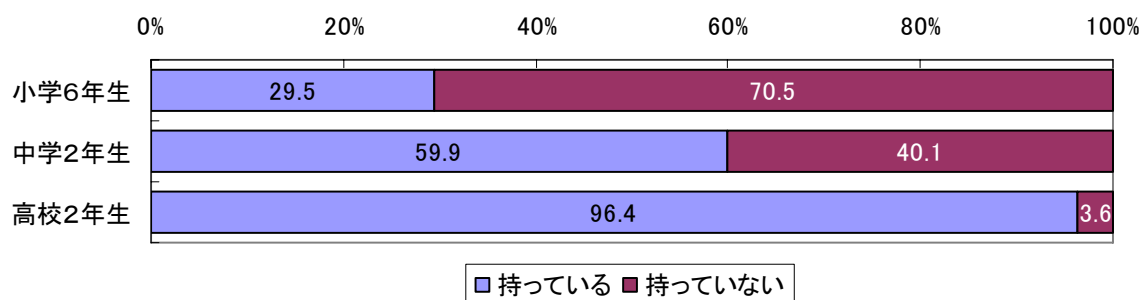
資料：埼玉県警『少年非行白書』平成22年版

②青少年の携帯の所持と利用状況

携帯電話の所持については、年齢が上がるにつれて所持率も高くなり、高校生ではほとんどの生徒が所持している状況が明らかになっています。

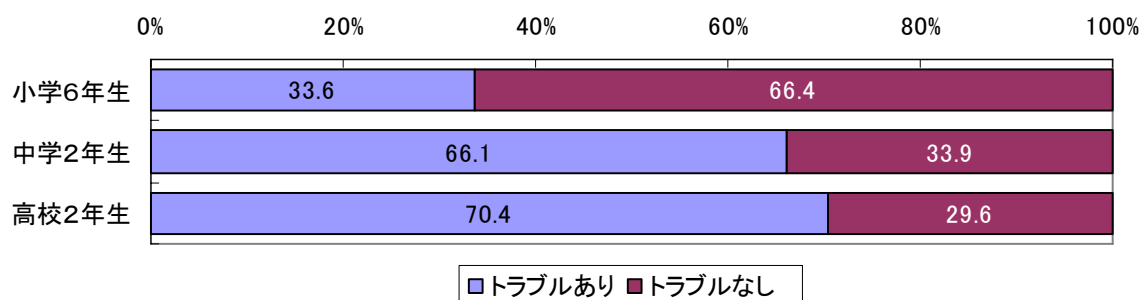
携帯電話利用にともなうトラブル・問題行動の経験については、学年が上がるにつれてトラブル・問題行動の経験者が増加していますが、本市でも同様の傾向となっています。

■携帯電話の所持



資料： 埼玉県教育委員会「平成 21 年度 携帯電話の利用状況に関する調査結果」

■携帯電話の利用によるトラブル・問題行動の経験状況（所持者対象）

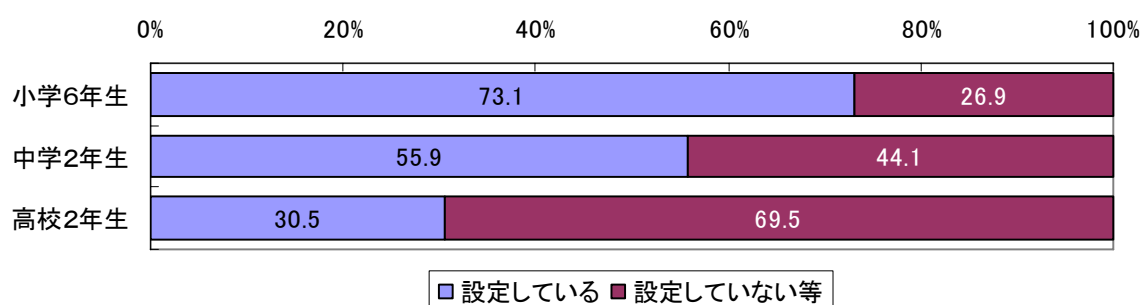


資料： 埼玉県教育委員会「平成 21 年度 携帯電話の利用状況に関する調査結果」

家庭内での携帯電話利用のルールについて、小学6年生では、設定している家庭が7割を超えています。高校2年生では約3割となっています。本市でもほぼ同様の傾向が見られます。

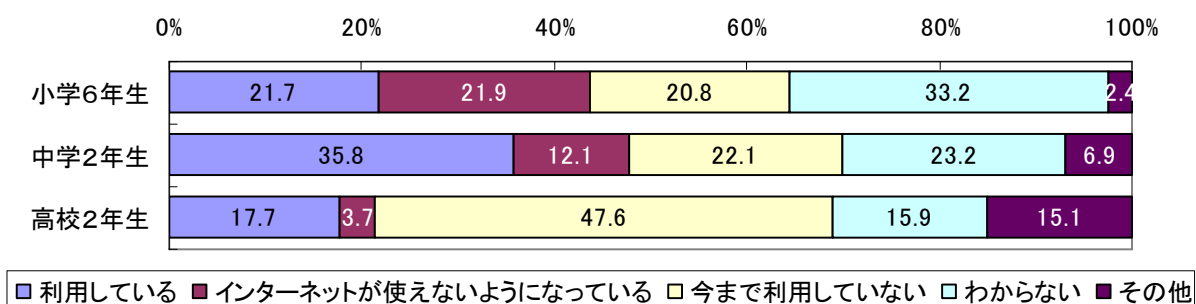
フィルタリング・サービスの利用状況について、「利用している」が小学6年生、高校2年生で約2割、中学2年生で3割超となっています。

■家庭内での携帯電話利用のルール設定状況



資料： 埼玉県教育委員会「平成 21 年度 携帯電話の利用状況に関する調査結果」

■フィルタリング・サービスの利用状況



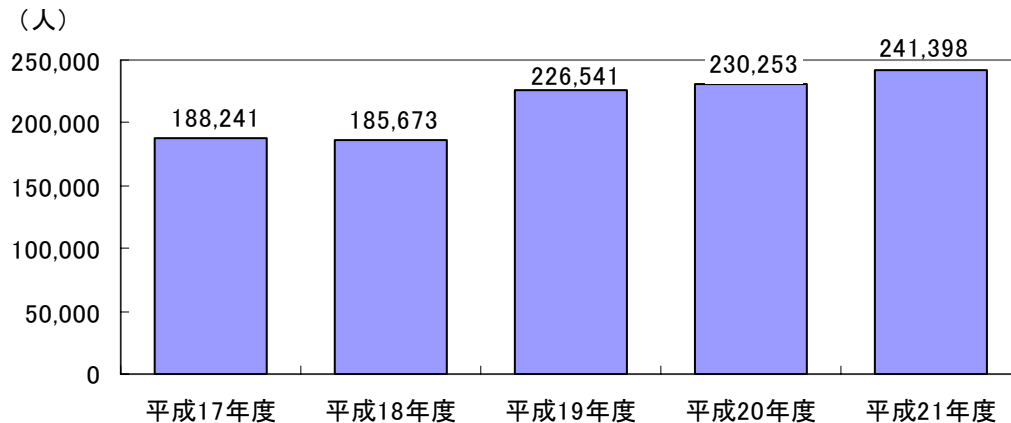
資料： 埼玉県教育委員会「平成 21 年度 携帯電話の利用状況に関する調査結果」

第4節 生涯学習・生涯スポーツの状況

(1) 文化会館の利用状況

文化会館の利用状況については、平成17年度の188,241人から平成21年度の241,398人へと利用者数は大きく増加しています。

■戸田市文化会館の施設利用者の推移



資料：財団法人戸田市文化体育振興財団

(2) 公民館の活動状況

公民館では、子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージや地域の特徴も生かした各種講座が実施されています。各公民館で活動する認定サークル以外にも、様々なサークルが活動しています。

■公民館の事業と認定サークル数

	上戸田公民館	美笹公民館	下戸田公民館	新曽公民館
講座名	ちびっこ広場①・②	親子体操講座	宝珠大学	子育て講座(幼児)
	読み聞かせ広場①・②	親子ふれあい料理講座	健康講座①～③	子育て支援講座①・②
	親子体験講座①～③	こどもマジック教室	子育て講座①～④	こども料理教室①・②
	サマースクール(小・中学生)	英会話講座	初級英会話教室	お菓子作り教室①・②
	ハローからの英会話教室	そば打ち体験講座	子ども体操教室	穀物菜食料理講座
	しあわせ生きがい講座	郷土学習講座	趣味講座①～③	そば打ち講座
	ピラティス①～⑤	俳句入門講座	親子料理教室	寿講座
	デジカメ教室①～④	パソコン講座①～⑤	パソコン講座①～⑥	親子体操講座
	パソコン講座①～⑦	健康体操講座	親子環境教室	パソコン講座①～③
	いきいき体験講座①～⑩	絵手紙講座	おとなの環境教室	市民企画講座
	公民館まつり	公民館まつり	子どもバレエストレッチ教室	こども映画会
	他6講座	他17講座	生活講座①～④	ファミリーコンサート
			公民館まつり	バンド祭り
		他3講座	公民館まつり	
			他12講座	
合計	43講座	32講座	31講座	31講座
認定サークル	全21団体	全20団体	全25団体	全23団体

資料：生涯学習課

(3) 図書館の状況

市立図書館利用の推移は、平成17年度から平成21年度にかけて貸出点数、貸出利用者数ともに増加傾向となっています。平成21年度実績でみると、図書以外にも含む貸出点数が計794,613点、登録者数が32,204人、貸出利用者数が211,905人となっています。

■市立図書館利用の推移

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
貸出点数	678,466	678,688	688,884	727,496	794,613
登録者数	37,107	36,257	31,504	32,135	32,204
貸出利用者数	188,458	192,281	195,588	208,751	211,905

資料：図書館・郷土博物館

■市立図書館利用の状況（平成21年度実績）

	個人						団体	合計
	本館	上戸田分室	下戸田分室	美笹分室	下戸田分室	小計		
貸出点数	492,091	133,738	58,705	33,142	56,117	773,793	20,820	794,613
登録者数	23,867	3,248	1,833	979	1,785	31,712	492	32,204
貸出利用者数	136,520	34,282	14,664	8,103	16,050	209,619	2,286	211,905

資料：図書館・郷土博物館

(4) 郷土博物館・彩湖自然学習センターの状況

郷土博物館の利用状況については、平成21年度実績でみると、入館者数が20,575人、1日平均入館者数63.3人となっています。学習支援として、小学3・4年生を対象とした博物館授業を13日間（参加延人数1,221人）、6年生を対象にした授業を12日間（参加延人数1,291人）実施しています。

彩湖自然学習センターの利用状況については、平成21年度実績でみると、入館者数が19,932人、1日平均入館者数60.4人となっています。学習支援として、子ども自然観察教室や、こども自然クラブなどを実施しています。

■郷土博物館利用の推移

常設展	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
入館者数(人)	17,282	17,701	18,067	20,794	20,575
開館日数(日)	302	316	319	321	325
1日平均(人)	57.2	56.0	56.6	64.8	63.3

資料：図書館・郷土博物館

■彩湖自然学習センター利用の推移

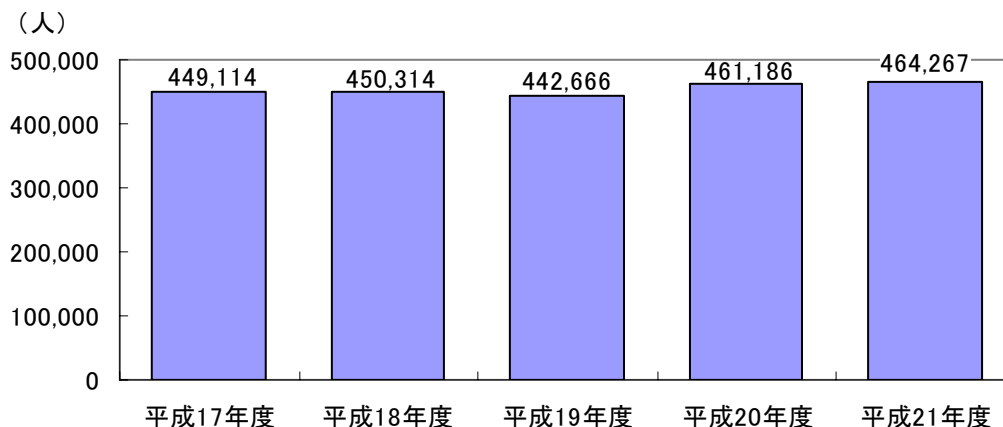
常設展	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
入館者数(人)	24,147	23,379	21,508	18,802	19,932
開館日数(日)	312	329	330	330	330
1日平均(人)	77.4	71.1	65.2	57.0	60.4

資料：図書館・郷土博物館

(5) スポーツ施設等の利用状況

スポーツ施設の利用状況について、スポーツセンターでは、平成17年度の449,114人から平成21年度の464,267人へと利用者数は増加しています。一方、彩湖・道満グリーンパークや公園野球場、テニスコート、サッカー場などの屋外スポーツ施設の利用者数は、減少傾向となっています。

■戸田市スポーツセンターの施設利用者の推移



資料：財団法人戸田市文化体育振興財団

■戸田市屋外スポーツ施設利用者の推移

施設名		平成19年度	平成20年度	平成21年度
彩湖・道満グリーンパーク	陸上競技場	6,939	8,097	10,286
	サッカー場2面	19,418	18,340	23,622
	ソフトボール場7面	67,711	42,723	44,615
	テニスコート9面	196,337	148,449	80,236
	野球場4面	17,695	12,637	15,231
小計		308,100	230,246	173,990
北部公園野球場		19,318	16,327	17,246
笹目公園野球場		16,162	15,843	18,902
新田公園野球場		7,691	8,990	10,795
中町テニスコート2面		10,839	9,961	9,798
惣右衛門公園サッカー場		6,710	510	409
合計		368,820	281,877	231,140

戸田市スポーツ施設予約システムによる集計（平成19年度）より

資料：文化スポーツ課

(6) スポーツ活動の状況

生涯スポーツの振興に向けて、各種スポーツ施設やスポーツセンター等の施設整備を図るとともに、スポーツ教室や学校体育施設の開放など、スポーツ・レクリエーションの普及に向けた取り組みを実施しています。

■平成 22 年度 文化スポーツ課事業計画

事業名	対象者
健康吹き矢教室	市民
スポーツ・レクリエーション交流	体協・レク協・スポ少等
ボート教室	中学生以上の市民又は、在勤、在学者
小学校のプール開放	市民
県南5市スポーツ交歓大会	体協加盟団体
カヌー教室	小・中学生の市民
市町村交流レガッタ	市民
市民体育祭競技大会	市民
市民体育祭地区大会	市民
市民体カテスト	市民
レクリエーション大会	市民
戸田マラソン大会	5歳以上
ヤクルト少年野球教室	小学生
学校開放	登録団体
スキー教室	小学4～6年生の市民
スポーツ・レクリエーション講座	市民

資料：文化スポーツ課